



のびるほとっ子！

ほとな未来へ 3C！

令和4年6月30日

横浜市立保土ヶ谷小学校

35年後の学校は？

学校長 小川 克之

6月27日に梅雨明けをし、6月にもかかわらず気温がぐんぐん上がり、真夏を思わせる太陽が輝いています。今年度は、宿泊体験学習や水泳学習等、3年ぶりの行事が実施できるようになってきています。コロナの状況も鑑みながら、安全第一で進めてまいりたいと思っております。

さて、今から12年前、私が保土ヶ谷小学校で副校長として勤務していた時の事です。書庫に用事があり、探し物をしている時、1冊の冊子を見つけました。中を見てみますと明治時代に書かれた「保土ヶ谷小学校職員録」でした。おそらく当時の教頭先生が書かれたものだと思いますが、20～30人の教員について名前や住所などが墨で書かれていました。もちろん当時はパソコン等もありませんでしたので、時間をかけながら1人ずつ小筆で丁寧に書いていたに違いありません。とても達筆で、つい足を止めて読んだことを思い出します。

話は変わりますが、私が大学を卒業し、初めて教壇に立ったおよそ35年前は職員室の様子が現在とは大きく違っていました。和文タイプや青コピー、(手書きの)原紙、手で扱う裁断機、OHP(オーバーヘッドプロジェクター)、16ミリフィルムの映写機等々、“昭和の歴史資料館”にでも並べているような機器が数多くありました。一つ一つ先輩の先生に教わりながら、使い方を学んだものでした。16ミリフィルムについては資格が必要なため、夏休みに2日ほど研修を受け、資格を取りました。子どもたちを大きな教室や体育館に集めて、映画を見せる時は大きな映写機からスクリーンに映像を映していました。

35年ほど経過した現在では、職員室に1人1台のパソコンが並べられ、コピー機もたくさんの機能がついた複合機となりました。電子裁断機や帳合機、高速印刷機、拡大機も印刷室にあります。パソコンで打った文字も、複合機に印刷されて出てきます。教室には、大型のテレビが設置され、番組やDVDの視聴はもちろん付属のカメラで子どもたちの作品やノートが画面にそのまま映し出すこともできます。子どもたちにも端末が与えられ、授業の中で使用することができます。

35年前と比べたらまるで夢のような学習環境となりました。当時、こんなものがあつたらよいというのが、実際に今では自分の手元にあり、扱えることができることに驚いています。

しかし、昔も今も勉強を教えるのは血の通った人間であり教師です。たとえ、教室の中が電子機器に溢れていても、子どもたちの優しい笑顔と先生の豊かな表情、そして温かな雰囲気の中で学習が展開されていることが大切だと思います。

35年後の学校はどのように変わっているか、想像することは難しいですが、今では考えられないような学習環境になっていることは間違いないでしょう。時代は変化しても、人と人とのふれあいや言葉のキャッチボールが教室の中で行われ、子どもたちの笑い声が聞こえる教室であってほしいものです。